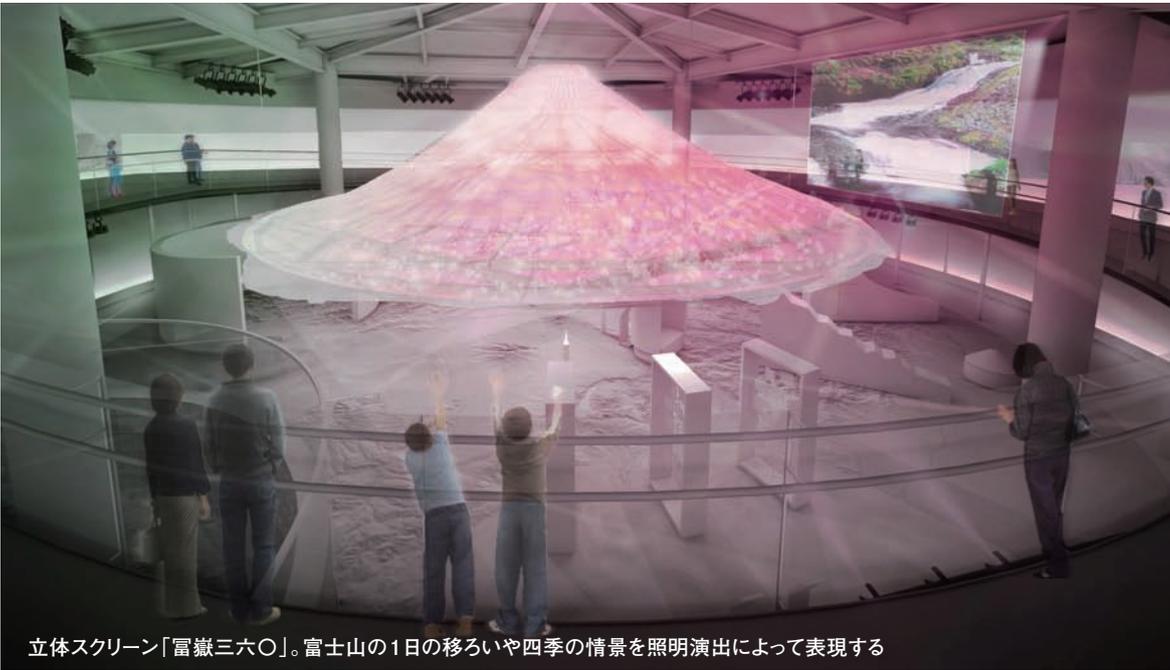


平成28年開館予定

富士山世界遺産センター



立体スクリーン「富嶽三六〇」。富士山の1日の移ろいや四季の情景を照明演出によって表現する

平成25年6月、世界遺産に登録された富士山。私たちは、その美しい姿や、富士山に息づく文化を後世に継承していかなければなりません。

県では、富士山の世界遺産としての価値を国内外に分かりやすく伝え、また、保全活動や調査研究の拠点ともなる施設「富士山世界遺産センター」（仮称）の整備を、平成28年の開館に向けて進めています。

また、ユネスコ世界遺産委員会からは、平成28年2月1日を期限に、富士山保全の方策を包括的に記した保全状況報告書の提出を求められており、報告書の提出に向け、同センターの整備を含め、さまざまな課題の解決に取り組んでいます。

「御中道巡り」で富士山の世界観を体感

エントランスホールに入ると、来館者は2階に誘導されます。2階は、富士山ならではの自然と人の関わりに触れるゾーン。富士山を模した和紙製の立体スクリーン「富嶽三六〇」を眺めながら、富士山の5合目付近を一周する信仰の道「御中道」をイメージした回廊を巡ることができます。

シンボル絵画制作

山口 晃さん（画家）

富士山は強敵です。北斎や大観くらいにならないと手に負えません。ですが、今回は県の方や地元の方が助けてくださいますので、私なりに立ち向かってみようと思います。恐ろしいながら、楽しみです。



山口さんの代表作 千躰佛造立乃圖 2009 カンヴァスに油彩、水彩、墨 73 x 182 cm
撮影：宮島径©YAMAGUCHI Akira, Courtesy Mizuma Art Gallery

ロゴマークデザイン及び展示デザインアドバイス

佐藤 卓さん（グラフィックデザイナー）

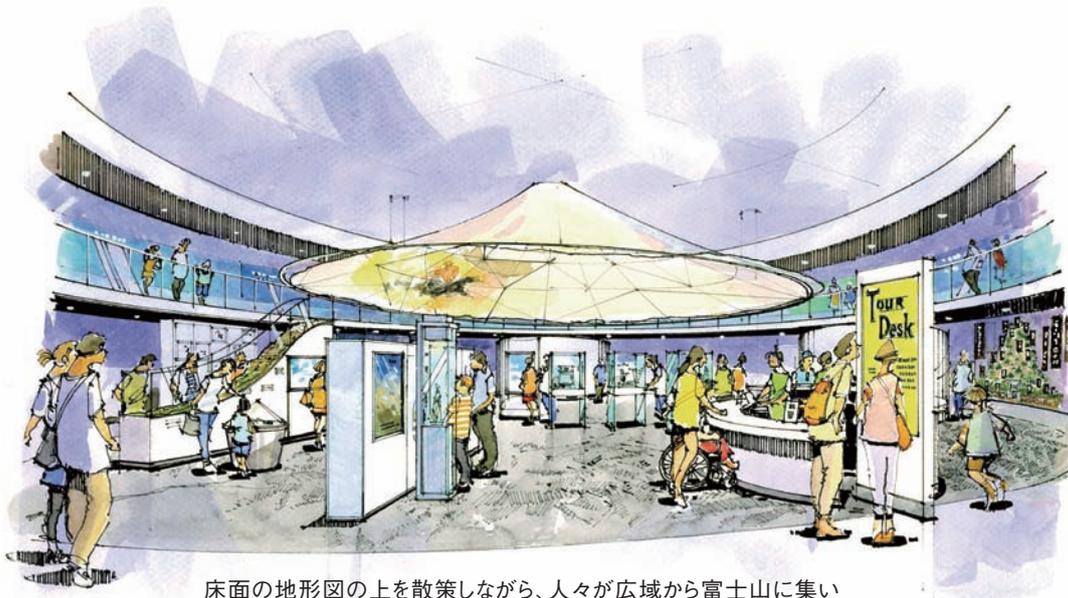
この度、山梨の富士山世界遺産センターのシンボルマークとロゴタイプ、そして展示のアドバイスを担当させていただくことになり、早速、幼い時から眺めていた富士山に足を運び、解説を聞きながら回ってみて、自分が今までいかに富士山のことを知らなかったか。まずそこに愕然とさせられました。美しいシルエットの裏に隠れた膨大で貴重な情報。その日から富士山の見え方が変わってしまいました。



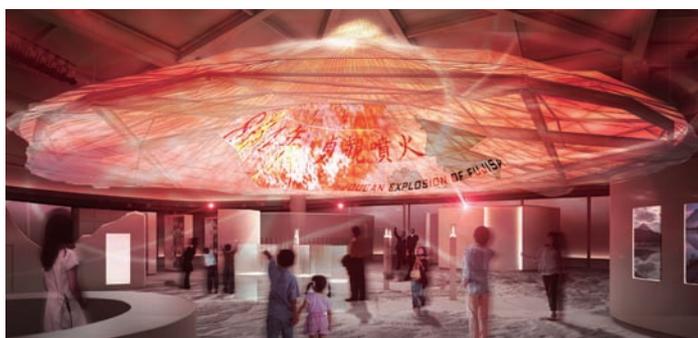
富士山世界の広がり、文化的価値を知る

1階は、世界遺産・富士山の文化的な価値を深く学ぶゾーン。信仰や芸術など、富士山を巡るさまざまな文化について、映像や体感型装置を通じて理解することができます。

床には富士山を中心とした広大な地形図、壁には日本そして世界各地の富士山信仰の姿を紹介するパネルなどを配置し、富士山世界の広がりを表現します。



床面の地形図の上を散策しながら、人々が広域から富士山に集いまた、富士山の影響が遠方へ広がっていく様子を立体的に体感できる



胎内ビジョン

「富嶽三六〇」内側の巨大なスクリーン。富士山ゆかりの伝承や歴史・文化に関わるテーマを映像などで紹介



芸術の源泉・富士山

西洋世界にも大きな影響を与えた江戸時代の浮世絵など富士山を描いた芸術について紹介



登拝

江戸を出発した富士講の人々が山頂へ至った旅程をジオラマで表現。彼らを迎えた吉田・川口御師町についても紹介



富士ビジターセンターの隣に建設し渡り廊下で接続する



景観に配慮し、周囲になじむ色彩の外観とした。壁面には「和」を感じさせる格子を採用。また、敷地内にある溶岩を活用し展示する

自然景観との調和